

### 21回目の「北欧音楽祭すわ」を迎えて

北欧音楽祭すわ実行委員長

武井 たけい

勇二 ゆうじ



#### 北欧？音楽祭の始まり

一九九九年5月、第1回目の音楽祭を下諏訪町の協力を得て開催しました。この音楽祭は、諏訪交響楽団が大変お世話になった故渡邊暁雄先生の「生活の中に音楽を広める」意思を受けて始められたものです。

北欧とは暁雄先生のお父さんが岡谷市出身で、下諏訪町で牧師となってフィンランドに渡り、



渡邊暁雄 木之下晃撮影

声楽家のシーリさんと結婚されて暁雄先生が生まれたというのが北欧との縁であったので、これにちなんで「北欧音楽祭すわ」と名付けました。当時、何故下諏訪で北欧かと皆様には不思議がられました。



ホルンとピアノの競演

暁雄先生は常々私に、「音楽は素晴らしいものだからプロもアマもなく生活の中に広めなければいけない」と云われました。

#### 二十歳を迎えた北欧音楽祭

私は周りから何を云われてもこれを押し通してまいりました。私は子どもころから諏訪響に馴染んでいましたので音楽の大切さを体で感じておりました。それは子どもころから、また大人になってどんな仕事につい



オーケストラとヴァイオリン演奏

ても同じでした。

私は音楽祭に参加、歌い演奏し聴く仲間を機会あるごとに増やしてきました。これを理解してもらおうのにずい分時間がかかりました。3年、5年、7年、10年、そしてとうとう昨年20年

発行 下諏訪町教育委員会  
編集 生涯学習  
編集委員会

〒393-8501  
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40  
(下諏訪総合文化センター内)  
☎0266-27-1111(内線718)  
FAX 0266-28-0131  
E-mail=syougai@town.  
shimosuwa.lg.jp

にもなりました。そして今では全国でも有名になりました。

## 新しい出発に向けて

私は疲れ果て音楽祭も今年でおしまいかと思いましたが、周りからの是非続けて欲しいという声に押されて今年21回目を迎えます。今年は渡邊暁雄先生、生誕100周年を迎えて暁雄先生が頑張れと天国から激励してくれている気がします。

私は諏訪響の縁で指揮者の小澤征爾さんと出会い、松本でフ

エステイバルを続けてきました。こちらは今年で28年目となります。北欧音楽祭もこれに続かなければと思います。

これを企画し運営する後継者を育てることが目下私の最大の課題ですが、町民の皆様とも相談したいと思っております。町の協力を得て20回目まで町民の皆さんに支えられてきたことに心から感謝します。

21年目の今年は10月12日に親と子どものためのコンサート、10月13日に諏訪響渡邊暁雄記念演奏会、10月14日に講演会を中

心に行います。

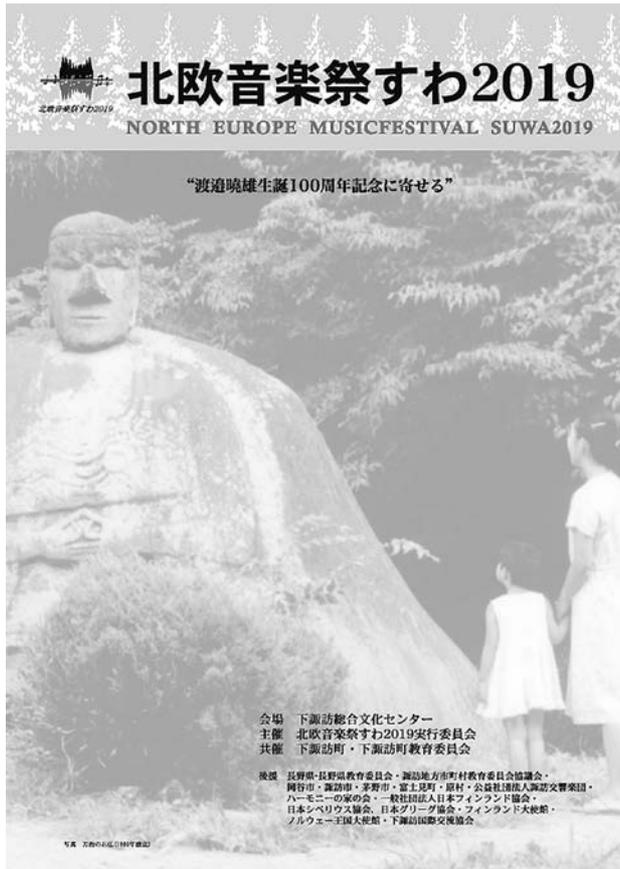
親と子どものためのコンサートでは地域の子どものたちの合唱、演奏、山崎莉歩さんのヴァイオリン独奏、定着した諏訪ホルンアンサンブルの演奏を行います。講演会で名誉会長の渡邊康雄さんによる「父渡邊暁雄のこと、由利奥様とのピアノ連弾」を行います。13日は演奏者を交えての交流会を行いますし、期間中には北欧グズの販売、渡邊暁雄先生の生誕100周年記念企画展も行います。

## 生活の中に音楽を

生活の中に音楽はどんな音楽でも自分の馴染んでいるものを口ずさみ楽器で演奏することで楽しんでもらえればよろしいと思います。カラオケも音楽です。そういうことから生活の中に音楽が馴染めばいやなことも苦しいことも忘れてしまいます。

これが北欧音楽祭の目指していることです。この機会に町民の皆様が大勢参加いただき、下諏訪町のこの地域から音楽を

広めることが出来れば私としては本当に嬉しいことです。詳しいことはリーフレット、ポスターをご覧いただき、下諏訪総合文化センターへのご来場をお待ちしています。



今年の北欧音楽祭のパンフレット



児童・生徒の演奏



## 焦らず、気取らず、楽しみながら

東町中 依田 秀人



「小説を書きたい」ではなく、「小説でも書いてみようかな」。30歳を超えてからなんとなく思うようになった。書いたら発表の場が必要だからと、岡谷市にある「風文学会」に入れてもらった。この時点で作品は一行も書けていないのだが、入れば書くしかないだろうと他力本願だった。生まれて始めて書いた30枚の大作(?)を同人誌に載せてもらった。絶賛されるだろうとわくわくしながら合評会に出席したが、会員からのコメントは厳しかった。「そもそもこれは小説なのか？」など。それでも「い

い物を持っている」とも言われたので続けてみようと思った。

処女作は少年が主人公だった。それを読んでくれた人から「児童文学が向いているのではないか」と言われ、それならばと児童文学も始めた。黒姫児童館で開催されている創作教室に通い、5枚の作品を書いた。講師からは「童話っぽい文章だけど中身は大人向け」と、鋭い指摘を受けた。いい物を書こうと力みすぎていたのだろう。そして「焦らず、気取らず、楽しみながら」との言葉をもらった。以来、書き始める前にはこの言葉を思い出している。

現在は信州児童文学会に所属して「とうげの旗」に児童文学



を、また風文学会の同人誌「風」には小説などを載せている。

「とうげの旗」に載せた作品に対して、小学生から感想をもらった

ことがある。一言、「すごいと思った」。この言葉はいつも自分を支えてくれている。「おもしろかった」、「よかった」ではなく、「すごいと思った」と言われる作品をこれからも追求していきたい。

20年以上にわたる創作歴を振り返ってみて、文章を書くことは「自己表現」の一つの手段だと感じる。絵も彫刻も筆も運動も全て苦手で、消去法で残ったのが文学だった。やりたいことを見つけても、できないことを捨てることも、どちらも大事だと思う。

去年今年吉野源三郎を読む

この句が、「2019年版夏井いつきの365日季節手帖」に1月1日の句として掲載された。(下諏訪町立図書館にもあります)

俳句もおもしろそうだな。書きたいこと、書いてみたいことは尽きない。



語りの会みなさんと

## 絵を描く



小1の時描いた山の絵を手に

町屋敷 黒澤 明

ポナールという画家がいますが、20年ほど前に横浜で展覧会があり、その中で土手の向こうに山が見えるというような平凡な小さな絵がありました。何のこともないな〜と通りすぎるところですが、ハタと気がつきました。え？本当に山が遠くにある。巷には山と湖というような絵はよくありますが、大抵は浮世絵や絵はがきみたいに平板でその場所はさぞかしきれいなんだらうなと想像させるだけのものです。でもその絵の中では

本当に山が遠くにありました。私は絵を描いているのでやはり生産者の立場で絵を見ることになりませんが、それがどういいう仕掛けになっているかを考えます。絵というものは、紙の上に顔料などが塗られたただの紙のしみに過ぎないものですが、その紙のしみのもつてきょうで、どうとでもなるものです。特別な秘密の技などない開かれた可能性なのです。

ポナールをはじめ西洋絵画が何を目指していたのか、それは「視覚」そのものの探求です。人間の視覚を遡行して辿り着いたりアリズムという技法なのです。写真のような絵と言います

が、カメラという機械はリアリズム絵画から生まれたものです。浮世絵からはカメラという機械は生まれません。人の視覚を技術化するつもりでした。それは眼球のようになりました。はやりのAIを付ければ完璧です。視覚神経そのものです。

私が生まれ育った時代は、敗戦後間もなくから東京オリンピック、高度経済成長と明治時代

に戻ったかのような西歐化時代と言えます。そんな中で洋画というものに自然に馴染んだように思います。中学生になったら油絵を描こうなんて目標にして、画材店の絵の具の匂いにつとりしていました。ちなみに今はホームセンターでスケッチブックと色鉛筆を買っています。視覚の探求に材料は関係ないので



最近のスケッチ・模写

# こども未来バスプロジェクト

## 走れ！こども未来バス



「こども未来バスプロジェクト」の始まりは、去年の秋、中学高校生が主体となって町に提案・提言をする「しもすわ未来議会」で、図書館に、話をしたり食事ができる場所を増やしてほしいと希望を出したからだった。

町からは、この秋廃車になる町所有のバスをリノベーションして飲食スペースを確保してはどうだろうか、という提案があり、具体的にそれを考えるプロジェクトチームの募集が始まった。こうして総勢16名のメンバーが集まった。

## 第1回プロジェクト会議



会議用のワークシート

宮澤正輝さん



図書館で第1回プロジェクト会議

第1回プロジェクト会議は、下諏訪で設計の仕事をしている宮澤正輝さんのお話を聞くことから始まった。

こども未来バスのコンセプト（全体を通した基本的な考え）、ターゲット（だれのための施設）、どんなことができるか等々、こども未来バスを考えていく上でのポイントを話してもらった。

そして町で実際にリノベーションをしているお店の方々からも話を聞くために、バスに乗り込んで、目的地に向かった。



御田町の「ミーミーセンタースメバ」。手作り感いっぱいの店内にびっくり。

平沢町の「マッサージハウス」さんでは、リノベーションされた各部屋を見せてもらう。昔からの建物の面白さも発見。



最後の訪問先の鷹野町のカフェ「UMI」さんも含めて、それぞれのお店の方から、リノベーションのねらいや材料の入手先、工夫や自慢なことなどを話してもらい、とても有意義な訪問になった。

メンバーのみんなは、初めての場所にも臆せず、しっかり話を聞いてメモをしたり、疑問な点を質問したりして、これからのプロジェクトに生かそうとしている様子だった。

# 図書館にリラックススペースを

## 第2回プロジェクト会議



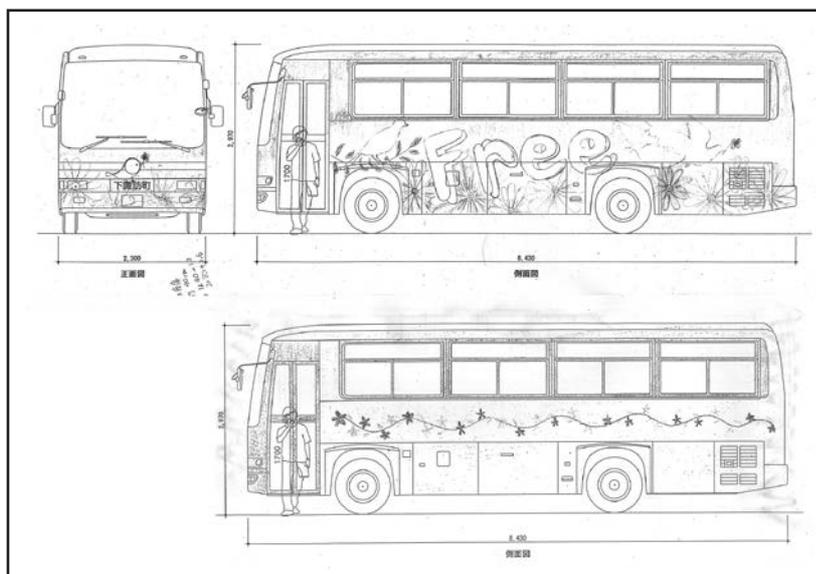
そして迎えた第2回目の会議。今回は、下の写真のように、床にバスの実際の大きさがわかるテープを貼ってもらい、その中でテーブルやイスの配置を考えることになった。「何人かの仲間と来る人と、一人で来る人と、席は別々の方が…」 「後ろでワイワイできるスペースを…」 「カーテンがあった方が…」 「イスは移動できる方がいい…」 会議室にあるイスや机も使って、白熱の話し合いが繰り広げられた。その上で、なお予想される課題について、具体的に詰めていく場面もあった。



床に引かれたバスと同じ大きさの枠

そんな話し合いを通して、第2回の会議では、メンバーそれぞれが思い描くテーブルやイスの配置と、バスの外側の色塗りの構図やデザインを考えることが宿題に出された

## 第3回プロジェクト会議



宿題メモに描かれた外装デザイン

第3回目の会議は、前回宿題となっていた「バスの外回りのデザイン」のそれぞれのメンバーによる発表から始まった。一面に草花の模様をちりばめたもの、大きくFreeと英文字が描かれたもの、緑濃い自然を表したもの等々、どれも素敵なデザインだ。細かなデザインの決定は、プロのデザイナーさんをお願いすることとし、みんなは仕上がりを待つことになった。

## そしてバスは進む

プロジェクト会議は第3回で一旦お休みとし、次回からは秋口に具体的な活動（外側の色塗りや内部のリノベーション等）に入っていきます。プロジェクトのこれからにご期待ください。

(文責 山田)

## 少年剣士と共に五十年

南四王 北原 直彦



「教えることは教わること」  
こんな思いで少年剣士と共に五  
十余年が過ぎました。

正しい剣道を教えるには先ず  
自分が正しい剣道を身につけな  
ければと、講習会に出稽古に、  
また昇段審査にと、あらゆる機  
会をとらえて勉強してきました。  
悲喜こもごもの思い出がよみが  
えってまいります。

さて、稽古は週三回町剣道場  
で行います。私共の理念は、  
「安全」「学業の妨げにならな  
い」「基本に忠実」の三点であ  
ります。先ず清掃、準備体操、  
素振り、足さばき、黙想と進行  
は子どもが交代で行います。初  
めは大きな声は出ませんが、回

を重ねるごとに大きな声  
で立派にできるようにな  
ります。子どもの順応性

の高さには驚かされます。続い  
て私が、四季の移ろいや生活、  
時の話題について三分ほど話し  
ます。例えば、「ただ見れば何  
の苦もなき水鳥の足にひまなき  
我思ひかな」等の道歌を用いて、  
子どもに「武の心」も受け伝え  
ます。「剣道即生活」「生活即  
剣道」と言われますように、剣  
道で学んだ礼節、身のこなし、  
また智仁勇の教えをしつかり身  
につけて、学校生活や日常生活  
に活かしてほしいと願っており  
ます。

気剣体一致を目指していよい  
よ稽古が始まります。指導陣は  
居合道教士七段の藤森秀茂さん  
を筆頭に、有段者八名です。剣



歴五十余年  
の河野弘光  
さんも頑張  
っています。  
紅一点小口  
八子さんは  
緊張の道場  
に和みを添  
えてくれま  
す。

剣道の稽  
古には色々な方法があります。  
切り返し、打ち込み稽古、地稽  
古、約束稽古、掛り稽古、追い  
込み稽古等を基本稽古と言ひ、  
他者の稽古を見るのは見取り稽  
古と言ひます。「人の振りみて  
我が振り直せ」の格言に通じる  
ものです。

どの稽古もきつく厳しいもの  
ですが、特に激しいのは掛り稽  
古です。元立ちに対し間断なく  
技をくり出して行くもので、四  
十秒の稽古は水泳百メートル自  
由形の運動量に匹敵すると言わ  
れます。これを十本続けます。  
しかし音を上げる子はおりませ  
ん。「石にかじりついてもうり  
通す」この心と体がなせる技で



新年度発会式

す。子どもたちの面ごしの玉の  
汗を見ると胸に迫るものがあり  
ます。そして整理体操、黙想、  
指導者のコメント等があり、約  
一時間半の稽古は終了します。  
終わりに、三百十六平米のす  
ばらしい道場で、思う存分稽古  
の出来る幸せを心より感謝して  
おります。剣道有段でありまし  
た、建造時の青木健一元町長の  
心が道場の隅々まで生きていま  
す。長い道程ではありませんが、  
先人の言を借りればまさに、辿  
り来て未だ山麓であります。

# としょかんまつり2019

## 10/19 (土) 20 (日)



家族みんなで楽しめる企画満載！ぜひこの機会に図書館にいらしてください。

日にち	場所 時間	2F 会議室	2F 声の図書室	こども図書室	ロビー他
19日 (土)	9:30 10:00	10:30~12:00 おはなしの広場 ・社中生大型紙芝居 よみきかせ ・星の会 朗読 ・おはなしのへや 影絵 「てぶくろをかいに」	10:00 ~12:00 体験しよう 朗読・点字	10:00 ~12:00 こども 俳句教室	9:30~ 展示 など ・下諏訪俳句会 ・世界の紙幣展 ・記念日の新聞を 印刷しよう 信毎データベースを 使って無料でコピー できます♪
	12:00 13:00	13:00~13:30 なかよし音楽教室による演奏			
	15:00	15:00~16:00 雅楽と朗読のおくりもの ・下諏訪中学校雅楽会 演奏 ・やまびこの会朗読			
	16:00				
20日 (日)	9:30 11:00	11:00~11:30 マジックショー	10:00 ~12:00 体験しよう 朗読・点字	14:00 ~16:00 かわいい メモ帳作り	9:30~ 展示 など ・下諏訪俳句会 ・世界の紙幣展 ・記念日の新聞を 印刷しよう
	12:00 14:00	14:00~16:00 図書館のお宝秘蔵展 			
	16:00				

問い合わせ先 下諏訪町立図書館 (電話 0266-27-5555)

### 十月のこゝろ

人生五十年、と言われたのはそう遠い昔のことではない。その分人生の、季節ごとの密度が凝縮されていったように思う。

十月といえば山の幸。とりわけキノコは欠かせない。もらい上手の母ゆえか、日当たりのいい実家の縁側には、広げられた新聞紙の上に、キノコ名人たちの持ち込んだ松茸やシメジ等が、足の踏み場もないほどに並べられていた。(今夜もまたキノコか。かんべんしてよ)

ささやかな食卓には必ずキノコがあり、子ども心に辟易したことを記憶している。(そうだ、夕食前に腹一杯にしておこう。そうすれば夕食パスできるから)子どもなりの知恵を働かせた末に、学校から帰ったら味噌や漬け物をおかずにして、残飯をかつ込みキノコ夕食に備えた。ところが育ち盛り。いくら食べてもすぐ腹が空く。結局夕食もしつかり食べてしまい、もくろみは頓挫した。

あれから幾星霜。自慢げにわが家を訪れていた松茸、シメジ採り名人達も秘密のありかを誰にも伝授することなくこの世から去っていつてしまった。

今や天然物のキノコなど希少なものになってしまい、ほとんどが人工栽培物としてスーパーに陳列されている。一年に一度位松茸を、と何年前かまで産地に買いに行っていたが、家人の「そのお金出すんなら特上の牛肉がたくさん買えるのに」と毎年言われ続けついに諦めてしまった。今後は人工栽培もののキノコ類で我慢する他なさそうである。

(植松 昌弘)